経営学論集 第５号　2024.3

新型コロナウイルス禍の 2022-23 年山梨県経済に関して
—2020 年からとの関連で—

深　澤　竜　人

はじめに

筆者は新型コロナウイルスの感染拡大が始まった 2020 年からの山梨県経済に関して、年次的に論文を出してきた。深澤［2021, 2022, 2023］がそれである。今回もそれらを継承して、前稿・深澤［2023］を継続させる形で、2022 年 9 月から 2023 年 8 月までの山梨県経済の状況を追究していくこととする。

深澤［2021, 2022, 2023］からの大きな転機としては、2023 年 5 月に WHO がコロナ緊急事態を終了させ、日本でも同年の 5 月 7 日の段階で、新型コロナウイルスは感染症法上 5 類への移行が実施された、これらのことが特筆されよう。しかし事態・状況が収束・集束したわけでは決してない。（これらに関しては後に詳述していく。）こうした経緯とともに、筆者が以前から追究してきた山梨県経済の状況はどのように変化したか・していないか。これらに関して、以前の稿を引き継ぐ形で、直近の状況を追究していくこととする。

なおかつ近年の問題としては、2022 年 2 月から始まったロシアのウクライナ侵攻からの物価の上昇・インフレーション、これに山梨県経済のみならず日本経済全般が非常に難儀していることが挙げられる。この物価上昇に関しては、前稿・深澤［2023］執筆時時点でさほどまだ問題化していなかったのであるが、しかしもはや完全に焦眉の急であって、光熱費やガソリン価格の上昇とともに、完全に国民は憂いている。

こうした物価上昇に関する動向とその詳細、そしてまたそれが与える影響や諸問題、これらに関してもやはり本稿で追究していくべき重要な課題対象であると考えている。

以上の状況・問題を本稿での対象課題としながら、筆者は今までの深澤［2021, 2022, 2023］に続いて、あるいはまた筆者の今までの山梨県経済に関する研究を基に、上記の課題に迫っていくこととしたい[1]。

（なお本稿は執筆時期として、2023 年 7 ～ 8 月のものであることを事前にお断りしておく。また本稿は深澤［2021, 2022, 2023］の継続編でもあるため、コロナ禍の展開過程また山梨県下各産業界での状況分析において、旧稿での分析・把握を再確認すると同時に活用するべく、表現的には旧稿のものと重複する箇所もあることをお断りしておく。）

[1] 本稿での山梨県経済に関する分析と指摘は、深澤［2021, 2022, 2023］以外に、深澤［2014ab, 2015, 2016, 2017ab, 2019a, 2020a］からのものである。基になっている統計資料・分析などと合わせた詳細は、それらを参照願いたい。

なお、山梨県の過去の感染症発症と拡大に関して歴史的な面からの考察として、深澤［2019b, 2020b］を参照。

１．事態の推移

①概観

まずは概観として、深澤［2021, 2022, 2023］に続いて、2022 年 9 月からのコロナ禍の全体状況から振り返っておきたい。24 ページ以下の「関連記事一覧」は、新型コロナウイルスの記事から、特に蔓延状況や山梨県内での経済状況に関して、筆者が主に新聞記事などから抽出したものである。そして山梨県あるいは全国的な状況に関するものの中で、特に感染者数や経済的な記事を中心に主だったものを収集した。（ただ感染者数などは、報道機関によって若干の異同がある。）本稿は深澤［2021, 2022, 2023］の継続編でもあるため、対象記事は 2022 年の 9 月からとしてある。これ以前に関しては、深澤［2021, 2022, 2023］を確認されたい。

まず深澤［2021, 2022, 2023］と同じく、改めて感染の始まりから感染拡大の状況を確認しておきたい。と言うのも、現在にいる我々は過去からの出来事と、このすさまじい感染拡大・流行の程を、既に忘れがちである。しかし改めて過去を振り返り、その感染拡大の有様を再確認しておくことで、この恐ろしいまでの感染拡大の程には、再度驚かされるはずだからである。

まず新聞報道などで新型コロナウイルスの記事が賑わい出したのは、2020 年の 1 月上旬であった。周知のとおり、中国の武漢市で発生したとのことで、世界保健機関（WHO）が新型のコロナウイルスと認定したのは 1 月の 14 日であった。まさかこの頃、事態がここまでになるとは誰も予想していなかったのではないか。

この頃の対策としては、「何とか日本国内への侵入を食い止める」「水際対策」とか言っていたのであるが、これらは結局のところ不可能であった。この新型コロナウイルスはこの後、一気に世界に蔓延していったのである。

日本国内で初の感染者が出たのは、そのわずか 2 日後の 1 月 16 日であった。当初は武漢からの帰国者であって、その感染問題が云々されていたが、しかしその後 1 週間余りで、ついに渡航歴のない人の感染が判明し（2020 年 1 月 28 日）、これで日本国内での感染発生となった。

もうその後は、続々と感染が広まっていく一方であった。この頃の予防策としては、「クラスター（集団感染）は何としても防がなければならない」という見解が多く聞かされ、この観点から、いくつかの施策が執り行われたのだが、しかしこれらの意図も施策も、結果として今日振り返れば何の成果がなかった。これが伝染病・感染症の恐ろしいところであろうか。

その過程を追ってみるとして、遅きに失した様ではあるが、3 月 11 日に WTO が「パンデミック（世界的な流行）」との表明を出した。しかしこの後、この感染拡大は一向に収束していかなかった。

概括的に日本のここまでの状況を簡単にでも総括してみると、何しろ事態は「新型コロナウイルス対応の特別措置法」によって、「緊急事態宣言」の発令や、「まん延防止法」による人流抑制・行動制限の要請と解除を繰り返してきた。つまり緊急事態宣言などを発して外出や営業自粛制限を行なって人流を抑制すれば、いったん感染者は低下する。そこで経済を活性化しなければならないとして、緊急事態宣言等々を解除し、人の流れを通常化させると、感染者が増加してしまう。まさに経済学で言う、トレード・オフ、二律背反の関係であった。

ここまでの感染増加を大きなくくりで把握すると、周知のとおり現在まで大きな波が 8 つあった。第 1 波が 2020 年 4 ～ 5 月、第 2 波が 2020 年 8 月、第 3 波が 2021 年 1 月、第 4 波が 2021 年 5 月、第 5 波が 2021 年 7 月に、それぞれピークを迎えている。同年の 12 月になる

と、オミクロン株なるものが猖獗を極め、これによって2022年１～２月に第６波を経験した。

しかしコロナ禍もこの頃になると、それに慣れてきたような感も出てきた。かねてよりウィズ・コロナという語も聞かされていたように、2022年からは政府からの緊急事態宣言の発令も、まん延防止法からの人流・営業等の行動制限、また各種イベントの開催の中止を求める動きはなくなってきた。本稿で対象としてきている2022年以降では、これが今までとは完全に異なる点である。

例えば、大学・学校などの教育関係機関も、今までオンラインやリモートの形態であったものが、2022年度４月からは多くが今までの通常通りの対面の形態に戻っていった。そしてその年の４～５月のゴールデンウィーク期間も、各種イベントやあちこちの祭りなど、三年ぶりの開催となっていったものがいくつか見受けられるようになった。（ただその開催は完全開催であったものや、規模を縮小させたものや、また継続して中止になったものなど、様々であったが。）

しかしこれによって案の定、あるいはまた想定の範囲内というべきか、2022年のゴールデンウィーク後は感染者が増加した。その後、６月中頃一旦感染者が減少したのだが、しかしその後はオミクロン株の変異株で特にBA.5などが猛威を奮うようになっていった。この感染力も非常に高く、また７月中旬の海の日を入れた三連休も以前と違って行動制限などはなく、人流が逆に盛んであったことからも、この後７月後半から各都道府県では過去最大の感染者数が出るようになっていった。この第７波のピークが、2022年の７～８月である。

さらに2022年の11月から翌2023年の初めにかけて第８波を経験する。この時期特に年末年始で人の移動が多くなったためか、山梨県内でも連日1000人を超すほどのすさまじい感染者が出、死者も増加した。

しかしここからがまた転換点であって、このような中でも、この新型コロナウイルスはもはや季節性インフルエンザと同等なものであり、感染法上の位置づけを５類へ移行・引き下げとする検討が行なわれていった（2023年１月）。このあたりから同時に、そして徐々に今までの規制や制限が緩和されていく。イベントの人数制限も撤廃され、様々な競技場での満席も声出し応援も可能となっていった（2023年２月）。マスクの着用も個人の判断とされたのも、2023年３月のことである。

2023年の５月になってくると、５日にWHOはコロナ緊急事態を終了させた。宣言から３年３ヵ月のことである。日本でも５月７日の段階で、完全に５類移行が実施された。コロナ感染者数の毎日の発表はなくなり、週一回の報告となって現在に至っている。

中国でとられた「ゼロ・コロナ政策」も反対が多く、2023年の１月に解除されている。

その後、感染はどうなっていったのかと言うと、収束・終息したどころではない。徐々にまた増えているというのが現状である。そして本稿執筆時の2023年７～８月の段階では、第９波に突入したのではないか、というのが直近の状況である。

しかしコロナ感染の報道がかつてのように毎日でなされていないため、関心が非常に薄いようである。筆者が個人的に数人に、コロナ感染者数について伺ってみたところ、感染者数が増えているのか減っているのか、そのことさえ知らないという方が多かった。しかし以下の記事一覧で見て解るように、感染の勢いは決定的に増加傾向であって、現在も楽観は許されないのではないだろうか。

2022 年 9 月～ 2023 年 8 月の新型コロナウイルス関連の記事一覧【特に山梨県・全国】

【2022 年】

9 月　1 日　山梨県内新規感染 729 人、のべ 86060 人超、3 人死亡、死者 127 人目、国内死者 4 万人に、第 7 波影響高止まり

2 日　山梨県内新規感染 613 人、のべ 86670 人超、2 週ぶり減、3 日連続 1000 人下回る、障碍者施設でクラスター

3 日　山梨県内新規感染 604 人、のべ 87270 人超、感染 11 日連続減

4 日　山梨県内新規感染 477 人、のべ 87750 人超、5 日連続 1000 人未満

5 日　山梨県内新規感染 238 人、のべ 87990 人超、病床使用 30% 台に、死者 131 人目

6 日　山梨県内新規感染 687 人、のべ 88670 人超、7 日連続千人未満、5 人死亡、死者 136 人目

7 日　山梨県内新規感染 552 人、のべ 89230 人超、病床使用 3 割切る、死者 139 人目

8 日　山梨県内新規感染 509 人、のべ 89740 人、16 日連続前週下回る、死者 140 人目

9 日　山梨県内新規感染 441 人、のべ 90180 人超、死者 141 人目、県内コロナ第 7 波死者 73 人、全体の半数、死亡率低く

10 日　山梨県内新規感染 429 人、のべ 90610 人、11 日連続で千人切る

11 日　山梨県内新規感染 356 人、のべ 90960 人超、死者 143 人目

12 日　山梨県内新規感染 154 人、のべ 91120 人、2 ヵ月ぶり 100 人台

13 日　山梨県内新規感染 615 人、のべ 91730 人超、死者 145 人目、病床使用 19%

14 日　山梨県内新規感染 468 人、のべ 92200 人超、高齢者施設でクラスター

15 日　山梨県内新規感染 365 人、のべ 92560 人超、23 日連続前週下回る
世界保健機関（WHO）テドロス事務局長「コロナ終わり視野」、感染防止継続訴え

16 日　山梨県内新規感染 315 人、のべ 92880 人超、クラスターも、死者 146 人目

17 日　山梨県内新規感染 274 人、のべ 93150 人超、25 日連続前週減

18 日　山梨県内新規感染 232 人、のべ 93380 人超、障碍者施設クラスター

19 日　山梨県内新規感染 109 人、のべ 93490 人超、27 日連続前週減、死者 147 人目

20 日　山梨県内新規感染 107 人、のべ 93600 人超、連日の 100 人台、自宅療養の女性死亡、入院中女性も、死者 149 人目

21 日　山梨県内新規感染 416 人、のべ 94010 人超、コロナ患者 3 人死亡、死者 152 人目

22 日　山梨県内新規感染 327 人、のべ 94340 人超、30 日連続前週下回る

23 日　山梨県内新規感染 264 人、のべ 94600 人、31 日連続で前週比減

24 日　山梨県内新規感染 109 人、のべ 94710 人超、自宅療養の男性死亡、死者 153 人目、オミクロン感染力強く県内クラスター 9 倍に

25 日　山梨県内新規感染 339 人、のべ 95050 人超、県内感染前週上回る

26日　山梨県内新規感染119人、のべ95170人超、連日の前週超
27日　全数把握簡略後の初の公表、山梨県内新規感染213人、のべ95380人
28日　山梨県内新規感染249人、のべ95630人超、4日ぶり前週減、クラスター2件
29日　山梨県内新規感染201人、のべ95830人超
30日　山梨県内新規感染240人、のべ99070人超
10月1日　山梨県内新規感染171人、のべ96240人超、40代女性が死亡、死者154人目
2日　山梨県内新規感染153人、のべ96400人超、2日ぶり前週下回る
3日　山梨県内新規感染56人、のべ96450人超、3ヵ月ぶり2桁
4日　山梨県内新規感染226人、のべ96680人超、高齢者2人死亡、死者156人目
5日　山梨県内新規感染180人、のべ96860人超、高齢者施設でクラスター
6日　山梨県内新規感染205人、のべ97060人超
7日　山梨県内新規感染167人、のべ97230人超、入院中の40代男性死亡、死者157人目
8日　山梨県内新規感染176人、のべ97410人超、医療機関クラスター、死者158人目
9日　山梨県内新規感染139人、のべ97540人
10日　山梨県内新規感染99人
11日　山梨県内新規感染85人、のべ97730人超、感染連日100人割れ、
医療機関でクラスター、死者159人目
12日　山梨県内新規感染354人、のべ98080人超、感染300人超7日ぶり、
県「連休明けで受信増」、死者160人目
13日　山梨県内新規感染326人、のべ98410人超、感染連日300人超
14日　山梨県内新規感染254人、のべ98660人超、3日連続前週上回る、感染7週ぶり増加
15日　山梨県内新規感染249人、のべ98910人超、4日連続前週上回る
16日　山梨県内新規感染194人、のべ99110人超、5日連続前週上回る、死者162人目
17日　山梨県内新規感染108人、のべ99210人超、6日連続前週上回る、死者165人目
18日　山梨県内新規感染345人、のべ99560人超、7日連続前週上回る
19日　山梨県内新規感染300人、のべ99860人超、連日300人台
20日　山梨県内新規感染378人、のべ100140人超、感染累計10万人に、死者167人目
21日　山梨県内新規感染219人、のべ100360人超、2週間連続増、死者168人目
22日　山梨県内新規感染235人、のべ100590人超、4日連続前週下回る
23日　山梨県内新規感染192人、のべ100780人超
24日　山梨県内新規感染116人、のべ100900人超、感染6日ぶり前週増
25日　山梨県内新規感染299人、のべ101200人超、2日ぶり前週下回る
26日　山梨県内新規感染451人、のべ101650人超、400人越え9月1日以来、死者169人目
27日　山梨県内新規感染303人、のべ101950人超、連日の前週超
28日　山梨県内新規感染348人、のべ102300人超、3週連続増、高齢者施設でクラスター
29日　山梨県内新規感染348人、のべ102650人超、4日連日の前週超、死者170人目
30日　山梨県内新規感染312人、のべ102960人超
31日　山梨県内新規感染203人、のべ103160人超、6日連続前週超

11 月 1 日　山梨県内新規感染 531 人、のべ 103690 人超、500 人超 9 月以来、7 日連続前週超
2 日　山梨県内新規感染 550 人、のべ 104240 人超、連日 500 人超、クラスター 2 件、
コロナ病床拡充、県フェーズ 2 に、死者 171 人目
3 日　山梨県内新規感染 439 人（後に 519 人に訂正）、のべ 104680 人超、
感染 9 日連続前週超
4 日　山梨県内新規感染 322 人、のべ 105000 人超、10 日ぶり前週下回る、死者 172 人目
5 日　山梨県内新規感染 592 人、のべ 105680 人超、2 日ぶり前週下上回る
6 日　山梨県内新規感染 522 人、のべ 106200 人超、月曜の 500 人超、8 月以来
7 日　山梨県内新規感染 294 人、のべ 106490 人超、3 日連続前週上回る
8 日　山梨県内新規感染 756 人、のべ 107250 人超、2 ヵ月ぶり 700 人超、
コロナ「第 8 波」の兆し、学校・福祉施設は厳戒、病床使用 20% 超す、死者 175 人目
9 日　山梨県内新規感染 755 人、のべ 108000 人超、連日 700 人超す、
知事「感染第 8 波」、県内同時流行へ対策急ぐ
10 日　山梨県内新規感染 684 人、のべ 108690 人超、クラスター 7 件、学校で閉鎖措置
11 日　山梨県内新規感染 763 人、のべ 109450 人超、7 日連続前週超
12 日　山梨県内新規感染 684 人、のべ 110160 人超、8 日連続前週超、感染 11 万人超す
13 日　山梨県内新規感染 618 人
14 日　山梨県内新規感染 382 人、のべ 111160 人超、10 日連続前週超
15 日　山梨県内新規感染 1107 人、1000 人超 8 月以来、のべ 112270 人超、死者 176 人目
東京は 1 万人超す、2 ヵ月ぶり、国内 10 万人
16 日　山梨県内新規感染 990 人、のべ 113260 人超、クラスター 3 件、県内で新派生型確認、
男性 4 人「XBC」と「XBB」
17 日　山梨県内新規感染 843 人、のべ 114100 人超、医療機関でクラスター
18 日　山梨県内新規感染 902 人、のべ 115010 人超、病床使用率 40% 迫る、死者 178 人目
19 日　山梨県内新規感染 893 人、のべ 115900 人超、2 施設でクラスター
20 日　山梨県内新規感染 732 人、のべ 116630 人超、日曜日 3 ヵ月ぶり 700 人超、
病床使用率 40% 上回る
21 日　山梨県内新規感染 476 人、のべ 117110 人超、2 人死亡、死者 180 人目、
17 日連続前週超、山梨の感染者全国 7 位、寒冷地多く乾燥影響か
22 日　山梨県内新規感染 1116 人、のべ 118220 人超、7 日ぶり 1000 人超
コロナ飲み薬国産初承認
23 日　山梨県内新規感染 1226 人、のべ 119450 人超、連日 1000 人超、死者 182 人目
24 日　山梨県内新規感染 575 人、のべ 120000 人超、
後遺症感染者の 37%、県調査、疲労・倦怠感や咳、「生活に支障」6 割超
25 日　山梨県内新規感染 983 人、のべ 121010 人超、クラスター 5 件発生、死者 185 人目
26 日　山梨県内新規感染 1109 人、のべ 122120 人超、2 施設でクラスター、死者 189 人目
27 日　山梨県内新規感染 770 人、のべ 122890 人超、3 日連続前週超、
高齢者施設でクラスター

28日　山梨県内新規感染401人、のべ123290人超、死者190人目
29日　山梨県内新規感染1105人、のべ124390人超、40代女性ら4人死亡、死者194人目
30日　山梨県内新規感染1175人、のべ125570人超、2人死亡、死者196人目、
高齢者施設でクラスター
12月 1日　山梨県内新規感染868人、のべ126440人、1人死亡、死者197人目、
クラスター6件、抗体保有 山梨26.7%、全国26.5%、長野9%
2日　山梨県内新規感染971人、のべ127410人超、病床使用率再び4割台
3日　山梨県内新規感染818人、のべ128220人超、県内死者累計200人、クラスター4件
4日　山梨県内新規感染609人、のべ128830人超、前週比161人減、死者201人目
5日　山梨県内新規感染468人、のべ128930人超、死者203人目 、2施設でクラスター
6日　山梨県内新規感染971人、のべ130270人超、4人死亡、死者207人目、
高齢者施設クラスター2件
7日　山梨県内新規感染1208人、のべ131480人超、
8日　山梨県内新規感染912人、のべ132390人超、1人死亡、死者208人目
中国ゼロ・コロナ見直し
9日　山梨県内新規感染1033人、のべ133430人、3人死亡、死者211人目、
クラスター1件
10日　山梨県内新規感染964人、のべ134300人超、4日連続前週超
11日　山梨県内新規感染755人
12日　山梨県内新規感染518人、のべ135580人、6日連続前週超、クラスター2件、
死者214人目
13日　山梨県内新規感染1136人、再び千人超、のべ136710人超、クラスター2件、
高齢者4人死亡、死者218人目
14日　山梨県内新規感染1331人、「第8波」最多、のべ138040人超、クラスター3件
15日　山梨県内新規感染1100人、のべ139140人超、3日連続1000人超、
2人死亡、死者220人目、クラスター3件
16日　山梨県内新規感染1044人、のべ140190人超、9日連続前週超、死者222人目
17日　山梨県内新規感染1119人、のべ141310人超、5日連続千人台、クラスター3件
18日　山梨県内新規感染892人、のべ142200人超、11日連続前週超、死者223人目
19日　山梨県内新規感染597人、のべ142800人、12日連続前週超、死者225人目
20日　山梨県内新規感染1214人、のべ144010人超、5人死亡、死者230人目、
クラスター2件
21日　山梨県内新規感染1296人、のべ145310人、4人死亡、死者234人目、
高齢者施設でクラスター
22日　山梨県内新規感染1087人、のべ146390人超、3人死亡、死者237人目
23日　山梨県内新規感染1073人、のべ147470人、高齢者5人死亡、死者242人目
24日　山梨県内新規感染1099人、のべ148560人超、4人死亡、死者246人目、
4ヵ所でクラスター

25 日　山梨県内新規感染 1020 人、のべ 149580 人超、感染 6 日連続千人超
26 日　山梨県内新規感染 589 人、のべ 150170 人超
27 日　第 8 派最多、山梨県内新規感染 1395 人、のべ 151570 人超、6 人死亡、死者 252 人目
28 日　山梨県内新規感染 1336 人、のべ 152900 人超、死者 258 人目、
県内インフル流行入り、コロナ禍で同時警戒
国内感染 2 日連続 20 万人超、コロナ感染死 415 人一日最多
29 日　山梨県内新規感染 1280 人、のべ 154180 人超、3 人死亡、死者 261 人目、
3 施設でクラスター
全国 1 日の死者数・クラスター・搬送困難、軒並み過去最悪
30 日　山梨県内新規感染 1081 人、のべ 155270 人、4 日連続前週上回る、2 施設でクラスター
国内コロナ月間死者最多、第 7 波超え計 7432 人
31 日　山梨県内新規感染 803 人、のべ 156070 人超
国内 2022 年の感染 15 万人超

【2023 年】

1 月　1 日　山梨県内新規感染 890 人
2 日　山梨県内新規感染 622 人、のべ 157580 人超、4 ヵ所でクラスター
3 日　山梨県内新規感染 738 人、のべ 158320 人超、高齢者 2 人死亡、死者 263 人目
4 日　山梨県内新規感染 1069 人、再び千人台、のべ 159390 人超、3 ヵ所でクラスター
5 日　山梨県内新規感染 1404 人、第 8 派最多、のべ 160790 人超、病床使用 50% 超す
全国コロナ死者最多 498 人
6 日　山梨県内新規感染最多 2201 人、のべ 162990 人超、年末年始の移動影響か、
死者 264 人目、県内陽性率が急上昇
国内感染 3000 万人超す、累計人口の 4 分の 1 に
7 日　山梨県内新規感染 1762 人、のべ 164750 人超、6 人死亡、死者 270 人目、
クラスター 3 件
中国ゼロ・コロナ終了、国内は 3 日連続 20 万人超
8 日　山梨県内新規感染 1336 人、日曜日最多、のべ 166090 人超、4 日連続前週上回る、
県内第 8 派死者最多、第 7 波超え 100 人に迫る
9 日　山梨県内新規感染 839 人、月曜日最多、のべ 166930 人超、高齢男女 5 人死亡、
死者 275 人目
10 日　山梨県内新規感染 556 人、のべ 167500 人、死者 280 人目、第 8 派死者 100 人超
11 日　山梨県内新規感染 1679 人、再び 1600 人台、のべ 169160 人超、7 人死亡、
死者 287 人目、クラスター 4 件、第 8 派救急医療逼迫恐れ、直近 1 週間の感染最多、
継承者平日受信を、県が特別要請
12 日　山梨県内新規感染 1365 人、のべ 170530 人超、死者 293 人目
13 日　山梨県内新規感染 1211 人、のべ 171740 人超、死者 302 人目
14 日　山梨県内新規感染 1066 人、のべ 172810 人超、死者 307 人目、病床逼迫続く、
医療現場の対応力低下

15日　山梨県内新規感染779人、のべ173590人、死者308人目、3ヵ所でクラスター
16日　山梨県内新規感染505人、のべ174090人超、死者312人目、
病床フェーズ5に、第7波以来引上げ
17日　山梨県内新規感染1008人、また千人台、6日ぶり前週上回る、のべ175100人超、
死者316人目全国死者最多の更新492人、80代感染増影響か
18日　山梨県内新規感染1055人、連日千人超、のべ176150人超、5人死亡、
死者321人目、クラスター2件
19日　山梨県内新規感染728人、連日千人超、のべ176880人超、1人死亡、死者322人目、
クラスター4件発生、新派生型県内初確認、BQ・1・1免疫すり抜ける恐れ、
山梨県内インフル流行続く
20日　山梨県内新規感染656人、のべ177540人超、死者324人目、3ヵ所でクラスター、
週間感染2週ぶり減、
コロナ今春5類引下を首相表明
21日　山梨県内新規感染683人、のべ178220人超、死者327人目、高齢者施設でクラスター
22日　山梨県内新規感染493人、のべ178710人超、5日連続前週比減
23日　山梨県内新規感染334人、のべ179050人超、クラスター1件、4人死亡、死者331人目
24日　山梨県内新規感染756人、のべ178800人超、5日連続前週下回る、
1人死亡、死者332目人
25日　山梨県内新規感染680人、のべ180480人超、累計18万人超、死者334人目
26日　山梨県内新規感染573人、のべ181060人超、65歳以上6人死亡、死者340人目
政府方針、新型コロナ「5類」移行5月8日
27日　山梨県内新規感染513人、のべ181570人超、10日連続前週下回る、週間感染34%減少、死者343人目
政府対策本部、新型コロナ「5類」移行5月8日決定
28日　山梨県内新規感染475人、のべ182040人超、高齢者3人死亡、死者346人目
29日　山梨県内新規感染294人、200人台11月以来、のべ182340人超、
高齢者3人死亡、死者349人目
30日　山梨県内新規感染185人、3ヵ月ぶり100人台、のべ182520人超、
13日連続前週下回る、7人死亡、死者356人目、
県内「転入超」2年連続、昨年テレワークが普及
31日　山梨県内新規感染474人、のべ183000人超、8人死亡、死者364人目、1月死者最多、山梨県内2022年有効求人倍率コロナ前水準に、製造・観光が回復
2月 1日　山梨県内新規感染428人、のべ183420人超、15日連続前週減、山梨県イベント人数制限撤廃、2年8ヵ月ぶり、満席・声出し応援可
2日　山梨県内新規感染369人、減少傾向、のべ183790人超、死者368人目
3日　山梨県内新規感染296人、のべ184090人超、1人死亡、死者369人目
4日　山梨県内新規感染292人、のべ184380人超

5 日　山梨県内新規感染 272 人、のべ 184650 人超
6 日　山梨県内新規感染 135 人、のべ 184790 人超、20 日連続前週比減、死者 371 人目
7 日　山梨県内新規感染 307 人、のべ 185100 人超、3 週間連続前週比減、死者 3713 人目
国内死者累計 7 万人、1 ヵ月で 1 万人増
8 日　山梨県内新規感染 282 人、のべ 185380 人超、コロナ入院 100 人切る、
3 ヵ月ぶりの水準、死者 375 人目
9 日　山梨県内新規感染 220 人、のべ 185600 人超、感染 200 人台続く、死者 377 人目
10 日　山梨県内新規感染 207 人、のべ 185800 人超、24 日連続前週減、死者 378 人目
11 日　山梨県内新規感染 181 人、のべ 185990 人、5 日ぶり 100 人台、死者 379 人目
12 日　山梨県内新規感染 96 人
13 日　山梨県内新規感染 64 人、のべ 186150 人、連日 2 桁台、4 ヵ月ぶり 100 人切る、
死者 380 人目
14 日　山梨県内新規感染 271 人、のべ 186420 人超、4 日ぶり 200 人台、死者 381 人目
15 日　山梨県内新規感染 243 人、のべ 186660 人超、連日 200 人台、死者 382 人目
16 日　山梨県内新規感染 146 人、のべ 186810 人、30 日連日前週減、死者 384 人目
17 日　山梨県内新規感染 180 人、のべ 186990 人、5 週連続減、感染「小康状態」に
18 日　山梨県内新規感染 143 人、のべ 187130 人超、3 日連続 100 人台
19 日　山梨県内新規感染 106 人、のべ 187230 人超、33 日ぶり前週超、中北地域でクラスター
20 日　山梨県内新規感染 64 人、のべ 187300 人超、100 人切る、死者 385 人目
21 日　山梨県内新規感染 191 人、のべ 187490 人超、3 日ぶり前週比減、死者 387 人目
22 日　山梨県内新規感染 135 人、のべ 187630 人超、2 日連続 100 人台、死者 389 人目
23 日　山梨県内新規感染 124 人、のべ 187750 人超、3 日連続前週下回る、2 ヵ所でクラスター
24 日　山梨県内新規感染 68 人、のべ 187820 人超、4 日ぶり 2 桁台
25 日　山梨県内新規感染 195 人、のべ 188020 人、5 日ぶり前週超
26 日　山梨県内新規感染 148 人、のべ 188160 人超、連日の前週超
27 日　山梨県内新規感染 58 人、のべ 188220 人超、医療機関クラスター、死者 391 人目
28 日　山梨県内新規感染 145 人、のべ 188370 人超、連日前週下回る、死者 392 人目
3 月 1 日　山梨県内新規感染 156 人、のべ 188520 人超、3 日ぶり前週上回る、死者 394 人目
2 日　山梨県内新規感染 122 人、のべ 188640 人超、病床使用率 1 割に、死者 395 人目
3 日　山梨県内新規感染 108 人、のべ 188750 人超、前週比 40 人増、死者 397 人目
4 日　山梨県内新規感染 106 人、のべ 188860 人超、2 日ぶり前週比減、死者 399 人目
5 日　山梨県内新規感染 78 人、のべ 188940 人超、6 日ぶり 2 桁
6 日　山梨県内新規感染 37 人、のべ 188970 人超、50 人切る昨年 7 月以来
7 日　山梨県内新規感染 134 人、のべ 189110 人超、死者 401 人目、県内死者 400 人超す
8 日　山梨県内新規感染 138 人、のべ 189250 人、5 日連続減
9 日　山梨県内新規感染 69 人、のべ 189310 人超、新規感染減 2 桁に、死者 402 人目
10 日　山梨県内新規感染 84 人、連日の 2 桁、のべ 189400 人超、死者 403 人目

11日　山梨県内新規感染62人、のべ189460人超、死者404人目、8日連続前週比減
12日　山梨県内新規感染78人、マスク着用ルール緩和、「個人の判断」に
13日　山梨県内新規感染40人、連日の2桁、のべ189580人超、病床使用率5.0%切る
14日　山梨県内新規感染76人、6日連続の2桁、のべ189650人超
15日　山梨県内新規感染55人、前週比83人減、のべ189710人超
16日　山梨県内新規感染52人、のべ189760人超、8日連続2桁、死者405人目
17日　山梨県内新規感染57人、のべ189820人超、4日連続前週減
18日　山梨県内新規感染55人、のべ189870人超、10日連続2桁、死者409人目
19日　山梨県内新規感染56人、のべ189930人超、11日連続2桁
20日　山梨県内新規感染35人、今年最少、のべ189960人超、
21日　山梨県内新規感染61人、のべ190020人超、感染累計19万人超
22日　山梨県内新規感染41人、14日連続2桁、のべ190060人超
23日　山梨県内新規感染74人、10日ぶり前週比増、のべ190140人超、死者411人目
24日　山梨県内新規感染78人、2日連続前週比増、のべ190220人超、死者412人目
25日　山梨県内新規感染83人、3日連続前週比増、のべ190300人超
26日　山梨県内新規感染65人、4日連続前週比増、のべ190360人超
27日　山梨県内新規感染28人、9ヵ月ぶり20人台、のべ190390人超
28日　山梨県内新規感染67人、2日連続前週比増、のべ190460人超
29日　山梨県内新規感染75人、前週超え続く、のべ190530人超
30日　山梨県内新規感染58人、3日ぶり前週比減、のべ190590人超、死者413人目
31日　山梨県内新規感染83人、2日ぶり前週比増、のべ190680人
4月 1日　山梨県内新規感染61人、のべ190740人超
2日　山梨県内新規感染61人、2日連続前週比減、のべ190800人超
3日　山梨県内新規感染27人、第8派以降最少、のべ190820人超、死者414人目
4日　山梨県内新規感染93人、4日ぶり前週比超、のべ190920人超
5日　山梨県内新規感染96人、前週比増2日連続、のべ191010人超、死者415人目
6日　山梨県内新規感染89人、前週比31人増、のべ191110人超
7日　山梨県内新規感染113人、1ヵ月ぶり100人超、2週連続前週上回る、のべ191220人
8日　山梨県内新規感染102人、連日の100人超、のべ191320人超
9日　山梨県内新規感染82人、6日連日前週超、のべ191400人超
10日　山梨県内新規感染69人、山梨の感染者全国最多、のべ191470人超、接触機会増要因か
11日　山梨県内新規感染139人、3日ぶり3桁、のべ191610人超
12日　山梨県内新規感染122人、9日連続前週超、のべ191730人超
13日　山梨県内新規感染106人、10日連続前週超、のべ191840人、死者416人目、
クラスター県内高齢者施設で多発、クラスター致死率3倍、県CDC「5類でも対策を」
14日　山梨県内新規感染85人、11日ぶり前週下回る、のべ191920人、死者417人目、
週間感染前週比43%増、観光客増影響か

15 日　山梨県内新規感染 71 人、2 日連続前週比減、のべ 191990 人
16 日　山梨県内新規感染 43 人、13 日ぶり 50 人切る、のべ 192030 人超
17 日　山梨県内新規感染 26 人、「第 8 波」最少、のべ 192060 人超
18 日　山梨県内新規感染 76 人、5 日連続前週減、のべ 192140 人超、死者 418 人目
19 日　山梨県内新規感染 100 人、6 日ぶり 100 人台、のべ 192240 人超
20 日　山梨県内新規感染 73 人、7 日連続前週減、のべ 192310 人超
21 日　山梨県内新規感染 88 人、前週比 3 人増、のべ 192400 人超
22 日　山梨県内新規感染 97 人、連日の前週比増、のべ 192490 人超
23 日　山梨県内新規感染 89 人、前週の倍、のべ 192580 人超
24 日　山梨県内新規感染 58 人、4 日連続前週超、のべ 192640 人超
25 日　山梨県内新規感染 81 人、5 日連続前週比増、のべ 192720 人超
26 日　山梨県内新規感染 102 人、7 日ぶり 100 人台、のべ 192820 人超
27 日　山梨県内新規感染 103 人、2 日連続 100 人超、のべ 192930 人超
28 日　山梨県内新規感染 88 人、3 日ぶり 100 人下回る、のべ 193020 人、死者 419 人目
29 日　山梨県内新規感染 106 人、再び 100 人台、のべ 193120 人超
30 日　山梨県内新規感染 76 人、10 日ぶり前週比減、のべ 193200 人超
5 月 1 日　山梨県内新規感染 57 人、連日の前週減、のべ 193250 人超
2 日　山梨県内新規感染 157 人、前週比倍増、のべ 193410 人超、死者 420 人目
3 日　山梨県内新規感染 141 人、連日の前週比増、のべ 193550 人超
4 日　山梨県内新規感染 65 人、3 日ぶり前週比減、のべ 193620 人超
5 日　山梨県内新規感染 63 人、前週比 63 人減、のべ 193640 人超
WHO コロナ緊急事態終了、宣言から 3 年 3 ヵ月
6 日　山梨県内新規感染 42 人、3 日連続前週減、のべ 193680 人超、死者 421 人目
感染毎日公表 8 日まで、県内木曜発表の週報に
7 日　山梨県内新規感染 97 人、4 日ぶり前週比超、のべ 193780 人超
新型コロナ 5 類移行
8 日　山梨県内新規感染 202 人、200 人超 3 ヶ月ぶり、のべ 193980 人超、
毎日の感染者数公表終了
16 日　山梨県内ゴールデンウィーク慣行百 116 万人超、13% 増、コロナ禍最多、山梨県内企業 働き方「コロナ前に」5 割、中小で顕著、5 類移行に合わせ（帝国データバンク甲府支店）
18 日　直近 1 週間患者 173 人、5 類移行後初の報告
19 日　コロナ定点把握、山梨は 4.22（前週は 1.80）、全国は 1.46
甲府商工会議所調査、景況感 10.4 ポイント改善、2 ～ 3 月コロナ規制緩和で
25 日　15 ～ 21 日感染 231 人、60 人増、GW で拡大か、1 医療機関当たり平均 5.68 人
6 月 1 日　5 月 22 ～ 28 日感染者 237 人、1 医療機関当たり平均 5.78 人、微増
8 日　5 月 29 ～ 6 月 4 日感染者 250 人、1 医療機関当たり平均 5.10 人、3 週連続増、
「5 類」効果人手に拍車、県内人手不足解消めど立たず

15日　5～11日感染者233人、1医療機関当たり平均5.68人、前週連比減
22日　12～18日感染者264人、前週連比31人増加、1医療機関当たり平均6.44人
29日　19～25日感染者271人、前週連比7人増加、1医療機関当たり平均6.61人、微増
7月 6日　6月26～7月2日感染者330人、1医療機関当たり平均8.5人、
5類移行後約2ヵ月で2倍、3校が閉鎖措置
13日　3～9日感染者357人、1医療機関当たり平均8.71人、
県内コロナ感染増、3校が閉鎖措置
14日　全国コロナ感染1.26倍、8週連続で増加
20日　10～16日感染者432人、1医療機関当たり平均10.54人、県内コロナ患者増加続く
21日　全国コロナ感染5類移行後9週連続増、初の「注意報」級、1機関平均初の11人台
27日　17～23日感染者578人、1医療機関当たり平均14.10人、県内コロナ3割増
28日　全国コロナ感染前週比1.26倍に、死亡に影響5月は610人（4月は560人）
8月 3日　7月24～30日感染者583人、1医療機関当たり平均14.22人、
県内コロナ感染なお微増
4日　全国コロナ流行「次の波」、前週比1.14倍、11週連続増
11日　7月31～8月6日感染者509人、1医療機関当たり平均12.41人、
県内コロナ患者8週ぶり減少傾向
14日　全国コロナ前週比0.99倍、5類移行後初の減少
16日　山梨県高齢者外出減5割超、22年県調査、体力低下につながる恐れ
17日　県内コロナ感染減少、2週連続、夏休み受診控えか
7～13日感染者498人、1医療機関当たり平均12.15人
18日　全国の感染者数前週比0.90倍、2週連続で減少
21日　県内コロナ病床増へ、5類後初、入院数上昇で、フェーズ2に
22日　全国所得格差過去最悪水準、21年コロナ禍非正規直撃
23日　ロシア軍侵攻1年版、戦線膠着、中国団体客3年半ぶり来日、羽田に、郡内・富士山へガソリン県内183円、全国15年ぶり最高値迫る
24日　県内コロナ感染6割増、県独自の基準で「感染拡大注意報」「医療逼迫注意報」発表
14～20日感染者803人、1医療機関当たり平均19.59人
25日　全国コロナ5類後最多、前週比増、1.26倍に
30日　ガソリン最高値更新、山梨県内も更新187円
31日　県、拡大注意報を継続、21～27日感染者978人、1医療機関当たり平均23.85人
（資料出所：主に『山梨日日新聞』『朝日新聞』ほかから抽出した。）

②山梨県の状況

以上全国的な状況を基に、さらに山梨県内の具体的な推移と状況の確認に入っていく。

深澤［2021, 2022, 2023］でも示したが、概要として、隣接する東京都、あるいは全国がこのような状況になったわけであるから、山梨県に影響が出ないはずはない。全国とほぼ同様な感染増加の波と影響を山梨県は受けている。それにしても上述のとおり、現在は全国と同様、山梨県においても第9派の入り口かという状況

にあって、徐々に感染者が増加してきている。しかしこれも既述のとおり、かつてのように毎日の感染者数が公表されなくなったことから、県民の関心は薄く、感染者が増加していることも知らない者が多いようである。このように従来ならば一大事として、危機感をつのらせて様々な措置が取られていたのであるが、もはや昨今はどこ吹く風という感覚になってしまっている感がある。

その詳細を以下見ていくとして、上記の記事一覧を改めて確認されたい。（2020 年 1 月から 2022 年 8 月までは、深澤［2021, 2022, 2023］を確認されたい。）

山梨県内の感染状況の程を見ていく。上記の記事一覧の感染者数は、毎日記載すると煩雑になるため、2020 年当初筆者独自の判断で 10 人増加するごとに記載していったものであるが、しかし 2021 年 4 月下旬あたりから連続的に 10 人以上の感染者が増加し出した。その様はほぼ毎日のように記載するところとなり、現在に至っているのである。

山梨県は第 2・3・4 回の緊急事態宣言の対象区域には該当しなかったのであるが、2021 年 8 月になると、山梨県内でも感染者が爆発的に増加するようになって、その 8 月には毎日 100 人に近い感染者数を出すようになってしまった。そしてまた、クラスターの発生が頻発した。ある施設では、関係者にはワクチンの摂取をほぼ終えていたのだが、それでもクラスターが発生してしまったという次第である。こうなると、もはや手の打ちようがなく、これ以上どうすることもできないとの悲鳴にも似た声が聞かれた。

2021 年 8 月当初から、山梨県も既述の第 5 波の中にあったのであるが、ただ山梨県の場合、この時も緊急事態宣言の対象区域にはなっていなかった。山梨県は「新型インフルエンザ等対策特別措置法」に基づいた「新型コロナウイルス感染症まん延防止等重点措置」が、8 月から 9 月まで、（いわゆる「まん延防止等重点措置対象地域」として、）県独自の措置が執り行なわれてきた。この具体的な内容に関しては、次の通りである。山梨県での「まん延防止等重点措置対象地域」としての具体的なものとして、県民への協力要請としては、不要不急の外出・移動の自粛要請、事業者へのテレワークの推進、イベント・会議等の中止・延期、学校向けの各種の対応要請、そして飲食店等に対する休業・営業時間の短縮、これらを求めた。また山梨県外の在住者には、観光・レジャーのための来県はしないことを求めていった。

これらから、（あるいは今まででも、）経営的に大きな打撃を受けたのは、特に既述の飲食店と観光産業であろう。酒類の提供は（持ち込みも含めて）、終日行なわない取り決めとなった。観光業でも、以下でも見ていくが、コロナ発生の 2020 年から青息吐息の状態で、7 月中旬に「Go To トラベル」で一時的な盛り上がりを見せたこともあるが、それはウイルスを蔓延・拡大させることもあり、それ以降再びひどい落ち込みの状態となっていったのである。

その後、既述のとおり、第 6・7・8 波を経験し、2023 年から規制も引き下げられ、同年の 5 月に 5 類移行となり、現在に至っている。飲食と観光もコロナ以前の姿に戻りつつある。これらの商況・景況の詳細については、後にまた触れていく。

山梨県の医療・病床面、そしてかなり見落とされていると思える死者の数を見ていくと、以下のとおりである。

山梨県では医療崩壊までには至らなかったが、2021 年 8 月末時点で病床使用率がおよそ 80% となり、一時期危機的な水準となった。その後、感染者の低下と、病床確保の増加に努

めたこともあって、医療崩壊の状況には至らなかった。

しかし感染状況は全国と同じで、特に第7波の2022年7～8月、第8波の2022年11月～2023年1月には、連日1000人近くあるいはそれを超す感染者が出たため、軽症者は自宅療養となっている。オミクロン株あるいはBA.5型は重症化しにくいとも一般に言われたことから、自宅療養の待機期間も短縮されて現在に至っている。

しかし何しろ懸念されるのは、死者数である。今までの記事からも解るように、2021年8月末現在で山梨県内の死者数は25人であったのであるが、約一年後の2022年7月末の死者数は75人となっている。そして5類移行直前の2023年5月時点で、死者数は421人である。つまり死者の増加が2022年7月時点では従来の3倍に、そして2023年7月時点では一年前の6から7倍となっているのである。

これらの死者の増加がすべてオミクロン株やBA.5によるものかどうかは把握できていないが、感染しやすいという特徴から、第7・8波は既述のとおり、爆発的に感染者が増加したのである。オミクロン株やBA.5は以前のウイルスと違って、感染力は高いが重症化しにくい、よって死に至ることは少ないと考えられていた。しかし、感染者数自体が非常に増えたため、感染者数という母体数全体が非常に大きくなり、それによって死者が非常に増加したと、このような指摘がよくなされている。

安易に重症化しにくい、死に至らないというような楽観的な判断・憶測は、大いに危険ではないだろうか。あるいはまた、コロナはもう終わったかのような勝手な主観も、これまた危険である。

2．山梨県内の景気概況と、主要産業の景気の模様（その詳細）

以上、東京都に代表させた全国的な状況、かつ山梨県内の直近までの感染状況は上記のとおりである。こうした一連の状況を確認した上で、次に以下では山梨県内における各種産業・業種の景気・景況、その詳細の程を確認していくこととする。

そこで適する端的な資料として、深澤［2021, 2022, 2023］に続いて、山梨中央銀行から毎月出されている『調査月報』に依拠した。これによって、経済の重要な統計が月ごとの推移で解るため、これを拙速ながら利用していきたい[2]。

同『調査月報』には景気・景況の解りやすい表示として、山梨県内の概況の他に、県内の主だった産業の景気・景況感に関して、天気マークが付されている。その天気マークを筆者が独自に、「快晴」「晴れ」「曇り」「雨」「大雨」と表示し直し、以下の表1に掲載した。表1は深澤［2023］からの延長表でもあって、各産業の景況感に関して、2021年8～9月から、直近の状況までの2年間を収集したものである。これによってコロナ発生後でここ直近2年間の山梨県経済の概況に関して、その長期的な状況と推移が確認できてくる。

先にコロナ禍の期間中を対象とした深澤［2021, 2022, 2023］では、景況の二極化状況やらK字回復の状況やらを提起した。その後の大きな転機としては、上述のとおり、2023年2月以降の第8波の収束後、また同年5月以降の5類移行後の状況である。つまり大きくは2023年以降、各産業においてコロナ禍での苦境がどのように変化したか。第8波の収束や5類移行後にどのような変化が生じているか。これらを確認していくことが、今回本稿での大きな課題

[2] 注の1を参照。

対象となっている。それらを以下で把握・確認していくこととする。この表から把握できることは、以下の諸点である。

①全体の動向と推移

コロナ禍で大きな苦境を強いられたのは、既述のとおり、旅行関係の観光業、飲食関係の商業であった。まずこれらの産業から見ていくと、観光業ではコロナ禍では「大雨」から「曇り」に、商業では「雨」から「曇り」に改善した。上記の比較対象時期で一番特徴的なのは、この二業種であろう。

ただこれらの産業は、はっきりとした好転にはとても至っていない。ともあれ、これらの産業界ではわずかに回復してきた点を、重く受け止めるべきであろうか。

建設は「雨」から「曇り」に改善している。これはコロナの影響かどうかは不明確である。

和紙・ニット・宝飾・織物の「雨」・「大雨」は、コロナ禍前後で大きな変化はない。同様に、汎用・業務用機械は「曇り」で変化はない。

食品と生産用機械の「快晴」は、コロナ禍においても同様であって、この二つの産業がずっと「快晴」を維持しているのである。これについての詳細を以下の③で示していく。

景況が悪化しているものとしては、電気機械他で、「晴れ」から「曇り」に。輸送機械が「曇り」から「雨」に、である。電気機械他はコロナ禍でも「晴れ」をずっと維持していたのであるが、2023 年の 2 ～ 3 月から「曇り」に変わっている。これに関する詳細も以下の③で示していく。

これらが全体の動向と推移・趨勢である。

②二極化状況・K 字回復

注意しておくべきは、以下の諸点である。

一般的に山梨県あるいは全国がコロナ禍にあって呻吟しているため、経済的な景気・景況の具合は、すべての産業・業種で悪いのであろうと、拙速的にこう思われがちなのであるが、詳細を見ていくと、まったくそうではなかった。県内の産業界だけでも上記のように完全に違っているのである。

表 1 を見て一言で言い表して、以前から伝えているとおり、景況は産業によって「完全に二極化の状況」になっている。これが巷でよく言われてきた「K 字回復」であった。山梨県下でも実際にそのようになっており、これが 2021 年から進行してきたわけである。それに関して 2022-2023 年の状況を加えながら、改めて詳解していくと以下のとおりとなる。

表 1 で見られるように、また深澤［2021, 2022, 2023］でも示したように、このコロナ禍の中、そして上記 1 で示したコロナ禍の進行途上、全産業が一律悪化の状況にあるのではなくて、表 1 の食品と生産用機械はずっと「快晴」または「晴れ」であった。食品産業は他の業が「雨」「大雨」で苦しむ中、まったく景況が良いのである。その他に、「快晴」または「晴れ」が見られる産業としては、生産用機械であった。食品産業を含めたこれらは、このコロナ禍まさに不況知らずのような状況である。（その要因や需要などに関しては、後述していく。）

逆に、上記の産業を除いた他の産業は、完全に苦しい・悪い状況にあった。特に状況が悪い産業は、既述の観光業であったのである。全国的に観光業は悪い状況であるが、特に山梨県の場合では要因は同様なものとして、訪日観光客が 2020 年 1 月の段階から激減したことにあった。山梨県の観光産業の中には、以前、外国人観光客の「爆買い」などに依存していた面があったのであるが、今回それらは全く見込めなくなった。（この点の詳細は深澤［2021］を参照。）そして新型コロナウイルスの蔓延拡大を対処するための外出自粛や、観光目的での移動

表１　山梨県内の景気概況と主要産業の景気の模様

	8～9月 【2021年】	9～10月	10～11月	11～12月	12～1月 【2022年】	1～2月
【概況】	全体として持ち直し、一部で弱さが増している。	一部に弱い動き、全体として持ち直し。	一部に弱い動き、全体として持ち直し。	一部に弱い動き、全体として持ち直し。	一部に弱い動き、全体として持ち直し。	持ち直しに一服感。
食品	快晴	快晴	快晴	快晴	快晴	快晴
和紙						
ニット	雨	雨	雨	雨	雨	雨
織物	雨	雨	雨	雨	雨	雨
宝飾	大雨	大雨	大雨	大雨	大雨	大雨
電気機械、情報通信機械、電子部品・デバイス	晴れ	晴れ	晴れ	晴れ	晴れ	晴れ
生産用機械	快晴	快晴	快晴	快晴	快晴	快晴
輸送機械	曇り	雨	雨	雨	雨	雨
汎用・業務用機械	曇り	曇り	曇り	曇り	曇り	曇り
建設	雨	雨	雨	雨	曇り	曇り
商業	雨	雨	雨	雨	雨	雨
観光	大雨	大雨	大雨	大雨	大雨	大雨

	2～3月	3～4月	4～5月	5～6月	6～7月	7～8月
【概況】	持ち直しに一服感。	緩やかに持ち直し。	緩やかに持ち直し。	緩やかに持ち直し。	緩やかに持ち直し。	緩やかに持ち直し。
食品	快晴	快晴	快晴	快晴	快晴	快晴
和紙	大雨					
ニット		雨	雨	雨	雨	雨
織物	雨	雨	雨	雨	雨	雨
宝飾	大雨	大雨	大雨	雨	雨	雨
電気機械、情報通信機械、電子部品・デバイス	晴れ	晴れ	晴れ	晴れ	晴れ	晴れ
生産用機械	快晴	快晴	快晴	快晴	快晴	快晴
輸送機械	雨	雨	雨	雨	雨	雨
汎用・業務用機械	曇り	曇り	曇り	曇り	曇り	曇り
建設	曇り	曇り	曇り	曇り	曇り	曇り
商業	雨	雨	雨	雨	雨	雨
観光	大雨	大雨	大雨	雨	雨	雨

	8～9月	9～10月	10～11月	11～12月	12～1月 **【2023年】**	1～2月
【概況】	緩やかに持ち直し。	緩やかに持ち直し。	緩やかに持ち直し。	緩やかに持ち直し。	緩やかに持ち直し。	緩やかに持ち直しているものの、一部に弱い動き。
食品	快晴	快晴	快晴	快晴	快晴	快晴
和紙						
ニット	雨	雨	雨	雨	雨	雨
織物	雨	雨	雨	雨	雨	雨
宝飾	雨	雨	雨	雨	雨	雨
電気機械、情報通信機械、電子部品・デバイス	晴れ	晴れ	晴れ	晴れ	晴れ	晴れ
生産用機械	快晴	快晴	快晴	快晴	快晴	快晴
輸送機械	曇り	雨	雨	雨	雨	雨
汎用・業務用機械	曇り	曇り	曇り	曇り	曇り	曇り
建設	曇り	曇り	曇り	曇り	曇り	曇り
商業	雨	曇り	曇り	曇り	曇り	曇り
観光	雨	曇り	曇り	曇り	曇り	曇り

	2～3月	3～4月	4～5月	5～6月	6～7月	7～8月
【概況】	緩やかに持ち直しているものの、一部に弱い動き。	緩やかに持ち直しているものの、一部に弱い動き。	緩やかに持ち直しているものの、一部に弱い動き。	緩やかに持ち直しているものの、一部に弱い動き。	緩やかに持ち直しているものの、一部に弱い動き。	緩やかに持ち直しているものの、一部に弱い動き。
食品	快晴	快晴	快晴	快晴	快晴	快晴
和紙	大雨					
ニット		雨	雨	雨	雨	雨
織物	雨	雨	雨	雨	雨	雨
宝飾	雨	雨	雨	雨	雨	雨
電気機械、情報通信機械、電子部品・デバイス	曇り	曇り	曇り	曇り	曇り	曇り
生産用機械	快晴	快晴	快晴	快晴	快晴	晴れ
輸送機械	雨	雨	雨	雨	雨	雨
汎用・業務用機械	曇り	曇り	曇り	曇り	曇り	曇り
建設	曇り	曇り	曇り	曇り	曇り	曇り
商業	曇り	曇り	曇り	曇り	曇り	曇り
観光	曇り	曇り	曇り	曇り	曇り	曇り

（資料出所：山梨中央銀行［2021,2022,2023］。空欄は記載なし。）

は制限されため、観光業はコロナ発生から完全に「大雨」「雨」の状況がずっと継続していた。それが今回徐々に改善し出したということになる。

同様に「大雨」「雨」の状況の産業としては、和紙、ニット、宝飾、織物、輸送機械、というところである。

汎用・業務用機械の「曇り」は以前から同じであった。建設、商業も曇りに変化してきた。

このように産業によって「完全に二極化の状況」が見られるのであって、それも片方が良くて、そうでないものが悪い基調となっている。これを文字に例えて、「K」の字の右側に上昇と下降の二つの線が見られることから、かねてから巷で「K字回復」と言い表している。こうした現象が山梨県経済でも、2020年以降そして2023年に入って第8波の収束や5類移行後にも、同様に見られるのである。

③好調側の需要

ではそこで、県内あるいは日本全体がコロナ禍で呻吟する中、好調な産業（上述の分類では食品と生産用機械）は一体どのような需要があって、その好調さを維持しているのであろうか。この産業の好調さをもたらしている需要先あるいは需要項目、これらに関して次に検討していくこととする。

上記と同じく山梨中央銀行の『調査月報』に依拠して、各産業ごとに以下箇条書き風に挙げてみることとする。これらに関して2022年8月までの状況は、深澤［2023］を参照されたい。2022年9月からのものを、深澤［2023］に準じて示していくと以下のとおりとなる。

【食品産業】

ワインの出荷好調。

ミネラルウォーターの出荷の好調。

惣菜類は中食の需要の底堅さから、出荷が堅調に推移。

菓子類の需要の増加（10月～11月）。

即席麺や乾麺等の麺類の需要増加（11月～12月）。

穀物製品は、出荷が底堅調に推移。

弁当類は、旅行客や観光事業向けの需要拡大で出荷が堅調に推移（4月～5月）。

【生産用機械】

半導体製造装置で、受注・生産が好調を維持。

工作機械及び関連部品は、受注・生産が好調・高水準。

産業用ロボットおよび関連部品は、自動化・省力化投資への底堅い需要から、受注・生産が増勢維持・好調に推移。

射出成型機は、スマートフォンなど情報通信機器に使用される小型機の受注・生産が好調に推移。

上記の産業ではこのような需要があって、受注・生産が増加しているため、景況的には好況・好調となっているようである。

そこでこのような需要に共通するものや、以下のとの関連でコロナ禍においても需要を支え生み出している新規の現象に関して、深澤［2021, 2022, 2023］ではおよそ以下のとおりであると総括しておいた。

世界的な半導体不足とその需要の高まり、また中国向けなど海外の需要があるというのは、コロナ発生の頃から言われてきた現象である。これはこれでさることながら、それよりも次のような新規の需要が生まれていると捉えておいた。その新規の需要で特に2021年9月からのものとしては、以下のとおりであった。

次世代通信規格「5G」の本格化による、パソコン、ゲーム機、スマートフォン向けなどの需要。自動車の自動運転・EV（電気自動車）

化、自動化・省力化装置、非接触に対応した製品向けの需要。さらにまた、以前からの在宅勤務、リモートワーク、また在宅時間や巣ごもりの増加、これらによってライフスタイルが変化していることから、それに関連する消費の変化と拡大、これらが生じているようであった。

④電気機械他の変調

このように指摘しておいたのであるが、これと関連させて気になるのは、2023 年の 1 ～ 2 月までは「晴れ」を維持していた電気機械他がその後「曇り」となった点である。既述の新規の需要のいくつかは電気機械他に関係するものが、以下のとおり存在する。そのため電気機械他に関して、さらなる状況を以前の好調さと比較する形で見ておきたい。

【電気機械、情報通信機械、電子部品・デバイス】

その他の電子部品については、次世代通信規格「5G」への対応を背景に、スマートフォン向けや基地局向けなどが増加傾向だったが、スマートフォン向けの受注・生産が、中国での需要減退から減少。巣籠もり需要の一巡でパソコン・タブレット端末などの IT 関連向けも弱含み。

IC チップは受注・生産が減少。半導体不足の状況下とは違って需要減少から在庫過剰で、調整局面。

水晶振動子・コネクタでは、主力のスマートフォン向け、ウェアラブル向け、通信基地局向けを中心に受注・生産が好調。その後 2 ～ 3 月に部品・部材の供給不足の影響により、一部に弱い動き。その後また高水準だったのであるが、在庫調整、中国での新型コロナ感染拡大などの影響、世界的な需要減少、スマートフォン向けの受注・生産が減速。

コンピュータ数値制御装置は、産業用ロボットや工作機械の安定した需要を背景に、受注・生産が堅調だったのであるが、国内の工作機械需要の落ち込みから、受注・生産が減速。

電源装置関連は、半導体・フラットパネルディスプレイ（FPD）製造装置向けや医療機器向けの受注・生産が前年を上回る水準であったのが、社会インフラ向けが弱含み。半導体・液晶装置向けなど民生向けも減少。

コネクタでは、スマートフォン向け、車載向けの受注・生産が堅調。その後 2022 年の 3 ～ 4 月に減速。6 ～ 7 月に弱含みだったが、その後 2023 年の 4 ～ 5 月になると需要低迷、スマートフォン向けの受注・生産が減少。

およそこのような推移あるいは比較対象が出て来る。

内容として特に共通するのは、スマートフォン向けの受注・生産が需要の減退・低迷から減速・減少。半導体不足の状況下とは違って需要減少から在庫過剰で、調整局面・在庫調整。このような指摘が見られる。

これらの今後の動向がどうなっていくのか、それに関しては、以下見るロシアのウクライナ侵攻での世界的な影響と合わせて、安易な予断は許されないというところであろう。

あとここに付加しておくべき重要な点は、以下のとおりである。以前の稿でも伝えてきたことであるが、例えば「快晴」の産業の業種が山梨県内の景気の牽引役やリーディング産業となって、他の産業の活性化や高揚を生み出していくということは疑問である。と言うのも、山梨県の経済構造と産業連関の構造からして、そのような連関性が見られないからである。この

点に関しては、コロナ禍の以前より、山梨県内の経済循環を扱った深澤［2015］ほかにて詳しく示してあるので、参照願いたい。

３．これからの動向

以下では以前から指摘されていた諸問題、上記の検討把握から敷衍されてくる点、そして現在懸念されている問題点、これらを合わせながら、さらに同時にこれからの動向を探っていくこととしたい。

まずコロナ禍におけるライフスタイルの変化に関して、以前から指摘されていたものが多々あった。深澤［2021, 2022, 2023］でも指摘してきたのだが、ウイルスの状況が未知数であり、これから状況がどう変化・浸透・定着していくのか、一時的な現象で終わるのか、こうした問題から安易な予断は全く許されなかった。

ただしかし既述のとおり、2023 年の５月に WHO はコロナ緊急事態を終了させ、日本でも５月７日の段階で、完全に５類移行が実施された。これによって、コロナ発生から巷間指摘されていたものと付き合わせて、ここで再考しておくことが有益であろう。

①巷間指摘されてきた見解

新形コロナウイルスの流行と被害が全国・地方経済、そして世界に深刻な影響を与え続けていたことから、さらにこれからの経済・社会、またライフスタイルが今後変わっていくだろう、そんな予測が巷間ではかねてよりささやかれてきた。確かにそうした予測・予想が現実になっていくくらいの、一大的な被害と影響があった。また本稿の２で示したように、在宅勤務、リモートワーク、また在宅時間や巣ごもりの増加、これらによってライフスタイルが変化していることから、それに関連する消費と需要の変化と拡大、これらは実際 2020 年のコロナの発生から生じていたわけである。

深澤［2021, 2022, 2023］では、巷間で指摘されていたものを、拾い上げて示しておいた。その中には今日既に杞憂的なもので、消失したものもあるが、逆に完全に今にも通じているものもある。これらを以下羅列して、ここで再考しておくのが有益であろう。

在宅勤務の拡大で雇用慣行の見直し（在宅診療・ネットでの採用面接も含めて）
テレワークの拡大、普及
オンラインによる会議・商談の増加
オンライン授業の拡大
名刺・ハンコの不要論の拡大
接客型営業の困難
テイクアウトの定着
電子決済の拡大
ネット注文の増加・拡大
小売り・宅配の浸透
首都圏の一極集中転換、過密を避けるため地方・山梨への移住、その相談が活況
自粛で生まれる特需（麺類・冷凍食品、ガーデニング、家具、DIY など）
マスクが必需品化
ソーシャルディスタンスの保護の観点
ワーケイションへの期待

およそこれらがコロナ禍の始まりから指摘されていた。ただこれらが現実となって展開し増加していくのかは未知数であると、以前の論稿では指摘しておいたわけである。そこでコロナ発生後四年目を迎えた現在で検討してみると、これらはだんだんと現実となって完全に展開し増加しているものもあれば、そうでないものもまたある。

例えば現在マスクは完全にいったん必需品化した。しかしそれが今後どう変化していくのかはやはり未知数である。オンライン型が定着し

たものもあれば、そうでないものもある。既述のように、教育現場ではオンラインのものもあれば、通常の対面の形態に戻ったものもある。またソーシャルディスタンスなど、保たれているものもあれば、逆に全く形骸化している場合もある。

やはりこの新型コロナが今後我々の日常のライフスタイルをも変えていくのかどうか、その安易な予断は到底許されない。巷間よく言われるように、新型コロナがインフルエンザと似たものとなって収束し、大きな災厄から今後我々が完全に離れることができるのか、あるいはまた以前と同様な繰り返しで新たな変異株等々が再度現れて、我々はそれに苦慮しなければならないのか、これらの予想・予断は筆者の手に目下余るものである。

②物価の上昇について

コロナ禍と同時に近年の問題は、何と言っても物価の上昇（インフレーション）である。本稿の「はじめに」でも述べたが、従来日本経済はデフレから脱却できずに困っていたのであるが、2022 年 2 月にロシアのウクライナ侵攻が始まった。これによって資源のない日本では、原材料価格と原燃料が高騰し、さらにまた輸送費の高騰も加わって、物価の上昇・インフレ基調となってきている。これに従来からのコロナ下での不況が合成し、日本経済はスタグフレーション（不況下の物価上昇）に入っていく、このようにも巷間ささやかれているところである。

こうした状況と見解について、山梨県経済においてはどのようなものであるか、これがコロナ禍の経済問題と並んで 2022 年からの大問題であるので、それに関してここで検討しておきたい。

景気の動向と推移は表 1 に示したとおりであるとして、表 2 ではそれに合わせて消費者物価指数を同資料から取ってみた。

全国の消費者物価指数が今までの低下傾向から反転し、明らかな上昇傾向・基調を示してきたのは、2021 年の後半からであった。その後、表 2 で見られるように全国の消費者物価が、一貫した上昇傾向となっている。つまりロシアのウクライナ侵攻（2022 年 2 月）以前に、消費者物価指数は既に上昇し出していたのである。この点は注意しておきたい。

それに少し遅れて山梨県では 2022 年に入った頃から上昇に転じている。ただ山梨県での上昇幅は、全国の上昇幅より落ち着いていたのである。しかしやはり全国的な影響をこのような形で、山梨県経済は受けてくることがこれによって解る。

それでも前年の当時期を振り返ってみると、前稿・深澤［2023］執筆時の 2022 年 8 月の状況では、ガソリン価格以外のものは上昇したとしても、さほどインフレで苦しいという感覚はまだなくて、県内でも新聞報道を始めとしたマスコミなどからも、インフレに関する県民の怨嗟の声は聞かれなかったのである。だがしかし、「インフレが本格化し、それに難儀し、怨嗟の声が出るのは、本稿脱稿後のことになるのかもしれない。」このように深澤［2023］（76 ページ）では示しておいたのだが、それが全くそのとおりとなってしまった。

その後 2022 年の 3 ～ 4 月からは、全国でも山梨県でも 1.0% を超える物価上昇が毎月毎月続き出した。これらは完全にロシアとウクライナとの戦争の影響であろう。その上昇幅もすさまじく、一時期 4.0% を超える上昇幅となっている。表 2 で見られるとおりである。

さらに長期的にこれ以前を振り返ってみると、あれほどデフレスパイラルに苦しみ、2% のインフレターゲットの数値目標などを行ないながら、何とかしてデフレを食い止めるよう努めていたのだが。何のことはない。今度は一転

表２　消費者物価指数（全国・甲府市）

年・月	消費者物価指数【全国】		消費者物価指数【甲府市】	
	指　数（2020 年 =100）	前年比（%）	指　数（2020 年 =100）	前年比（%）
2021.9	100.1	0.2	99.2	-0.7
10	99.9	0.1	99.8	-0.8
11	100.1	0.6	99.2	-0.1
12	100.1	0.8	99.2	0.1
2022.1	100.3	0.5	99.5	-0.4
2	100.7	0.9	99.8	0.0
3	101.1	1.2	100.3	0.3
4	101.5	2.5	100.7	1.3
5	101.8	2.5	100.9	1.2
6	101.8	2.4	101.1	2.6
7	102.3	2.6	101.7	2.9
8	102.7	3.0	102.1	3.2
9	103.1	3.0	102.5	3.4
10	103.7	3.7	103.2	4.5
11	103.9	3.8	103.6	4.4
12	104.1	4.0	103.5	4.4
2023.1	104.7	4.3	103.9	4.4
2	104.0	3.3	103.4	3.5
3	104.4	3.2	103.7	3.4
4	105.1	3.5	104.3	3.6
5	105.1	3.2	104.6	3.6
6	105.2	3.3	104.8	3.6
7	105.3	3.3		

（資料出所：山梨中央銀行［2022,2023］。原資料は総務省、山梨県統計調査課より。）

してこれほどまでの物価上昇に、現在苦しんでいるという皮肉な状況である[3]。さらに問題はこの物価上昇と合わせて、為替相場の上下からガソリン価格が 170-180 円台という高水準となったことから、これにも難儀している状況である[4]。

これに加えて、2023 年の 7 月は過去最高に

[3] しかし政府は本年度の財政経済白書を提出するにあたって、「デフレから脱却したといえる状況に至っていない」と分析している。理由はデフレ脱却の定義である「物価が持続的に下落する状況を脱し、再びそうした状況に戻る見込みがない」状態には当たらないという判断である。（以上、2023 年 8 月 30 日各種新聞報道。）

暑かった年月となり（8月2日各種新聞報道より）、また2023年の夏は気象庁が1898年の統計開始以来、日本の平均気温が最高となる見込みを明らかにし（8月29日各種新聞報道より）、実際に125年で一番の暑さとなった（9月1日各種新聞報道より）。国連でも周知のように、「地球温暖化」から「地球沸騰化」という用語が出された。これに影響しているのが、熱中症の危険はもとより、エアコン使用による電気代の昂進である。県民・国民の間では、もはやどうしようもないという、あきらめムードの感が強いというところであろうか。

総括

前号・深澤［2023］と同じく、以下総括しながらまとめに代えていきたい。

まずコロナに関しては、山梨県の場合、本稿の1で示した推移と、各種産業での状況は本稿の2で示したとおりであった。回復してきた産業もあれば、逆に悪化してきた産業もあった。その状況を簡単には、「二極化」「K字回復」などと表現したとおりである。

重要な転換点として、2023年5月にWHOはコロナ緊急事態を終了させ、日本でも5月7日の段階で、完全に5類への移行が実施されたとは言うものの、既述のとおり日本では本稿執筆時現在また再び感染者が増加し、第9波への突入が懸念されている。しかし国民・県民の危機意識は薄い。また中国のゼロ・コロナ政策を見ても解るとおり、もはや強制的な行動制限は取り得ないであろう。

となると、つまるところ重要なポイントは、今後コロナがどのように推移するかということになってくる。これによって、今後の動向として本稿の3の①で検討してきた巷間指摘されてきた見解や、本稿の2で確認してきた各種産業の状況も完全に違ってくると予見される。

これと並んで同時に問題は、やはり物価の上昇（インフレーション）である。決定的にはロシアのウクライナ侵攻から端を発したことは明らかであるが、これがまた今後どう進展していくのかが全く見えてこない。戦争は既に1年と半年が経過しているのであるが、事態がこう長引くというのも当初予見できなかったことではないだろうか。そしてまた戦争であるだけに、今後の進展がどうなるのかが一向に予想がつかない。

戦争がコロナと同じく、どう終息・収束するのか解らないことはもとより、同時に戦争やコロナ禍が終息・収束したとしても、その後に物価が以前のように元の水準に戻ってくれるのかどうか、これについても未知数であろう。

このようにまずは正確な状況を把握していかなければならないことを重視して、事態・景況の概観と推移等々を把握した。しかし、上記述べてきたように、また前稿・深澤［2023］と同様な結論になっていくが、本稿執筆時点では事態があまりに流動的であって、明確な今後の動向・情勢などはとても示しきれるものではない。そこで決定的に重要な因子となるものは、上記のようにコロナの今後の推移と戦争の今後の推移である。

それについて簡単に再確認しておくと、本稿の2・3で示したように、コロナ禍を通じてまたそれ以外でも、新たな需要が生まれてきているのだが、これとてもやはり流動的あろう。またロシアとウクライナとの戦争は、今後何がどう急変するか、これによって物価はどう変化す

[4] 「県内ガソリン177円40銭／15年ぶり高値 補助縮小響く」（『山梨日日新聞』2023年8月3日）、「ガソリン県内183円／全国15年ぶり最高値迫る」（『山梨日日新聞』2023年8月24日）、「ガソリン最高値、県内も更新187円」（『山梨日日新聞』2023年8月31日）。

るか、全く未知数である。そしてまた既述のとおり、戦争が終結したとしても、物価が元に戻るかも未知数であろう。

このようにあまりにも事態は現在流動的であり、何がどう影響していくのか残念ながら読み切れないというのが現状である。事態は全く日々変化流転し、見定めがたいという状況である。何しろ今後の情勢如何によって、大きく変わっていくものと予想される。その的確な予想はやはり筆者の手に目下余るというころである。安易な予想・予断などは、学術論文や学術的な見地からすれば、慎むべきで控えておくべきであろう。この点に関しては前稿・深澤［2023］でも何度か述べておいたとおりであって、やはり本稿でもこのように繰り返せざるを得ない。

（2023年9月12日脱稿。）

参照文献

深澤竜人［2014a］『市民がつくる半自給農の世界―農的参加で循環・共生型社会の構築を―』農林統計協会。

――［2014b］「山梨県昭和町の産業連関表推計算出、及びその経済分析」（『山梨学院大学経営情報学論集』第20号）。

――［2015］「山梨県の県内経済循環の検討―産業連関表（2005年）を基に―」（『山梨学院大学経営情報学論集』第21号）。

――［2016］「山梨県経済の景気循環と県内地域産業との関連―各種統計資料を基に―」（『山梨学院大学経営情報学論集』第22号）。

Tatsuhito FUKASAWA［2017a］「An Inquiry into the Deflationary Spiral, and On the Value of the Small Sized Farming : As an Example in Yamanashi Prefecture」（『山梨学院大学経営情報学論集』第23号）。

――［2017b］「A Study on the Theory of Prosumer」（明治大学『政経論叢』第86巻 第1・2号）。

深澤竜人［2019a］「山梨県における自然・環境の保護と農業・観光の振興に関する提言」（『山梨学院大学経営情報学論集』第25号）。

――［2019b］「近代山梨県経済における1890年恐慌の状況―各種史料を基に補充と再論―」『地域と社会』No.6、山梨県の公立図書館蔵。

――［2020a］「国連の「家族農業の10年」「小農の権利宣言」と家庭内供給的小規模農業展開論―家庭内供給的小規模農業展開論Ⅲ―」（『山梨学院大学経営学論集』第1号）。

――［2020b］「コレラの流行も乗り越えた日本」『山梨日日新聞』「私も言いたい」2020年5月23日。

――［2021］「新型コロナ・ウイルス禍の山梨県経済に関して―山梨県内の経済循環との関連で―」（『山梨学院大学経営学論集』第2号）。

――［2022］「新型コロナウイルス禍の2021年山梨県経済に関して―2020年からとの関連で―」（『山梨学院大学経営学論集』第3号）。

――［2023］「新型コロナウイルス禍の2022年山梨県経済に関して―2020年からとの関連で―」（『山梨学院大学経営学論集』第4号）。

山梨中央銀行［2021, 2022, 2023］『調査月報』No.525 ～。（https://www.yamanashibank.co.jp/economy/monthly/2023/）。